

平成28年12月26日
日本原子力発電株式会社

東海第二発電所及び敦賀発電所における 原子炉建屋等への浸水に係る調査結果について

当社は、本年11月16日に原子力規制委員会から発出された「北陸電力株式会社志賀原子力発電所2号炉の原子炉建屋内に雨水が流入した事象に係る対応について（指示）」※に基づき、東海第二発電所及び敦賀発電所における原子炉建屋等への浸水に係る調査結果をとりまとめ、本日、同委員会に報告しました。

今回の調査対象となった「重要度の特に高い安全機能を有する機器等を内包する建屋の貫通部」については、すべて浸水を防止する措置が施されていることを確認しました。

※ 原子力規制委員会からの指示事項

発電用軽水型原子炉施設に関する安全設計審査指針に定める重要度の特に高い安全機能を有する構築物、系統及び機器並びに当該安全機能を果たすために直接又は間接に必要とする構築物、系統及び機器を内包する建屋についての貫通部から建屋内部への水の浸入を防ぐ措置の現況について、平成28年12月26日までに報告すること。

<添付資料>

東海第二発電所及び敦賀発電所における原子炉建屋等への浸水に係る調査結果について（概要）

以 上

東海第二発電所及び敦賀発電所における原子炉建屋等への浸水に係る調査結果について（概要）

1. 調査内容

(1) 洪水等の発生による施設への影響

(2) 貫通部の数と浸水防止対策

<調査範囲>

重要度の特に高い安全機能を有する機器等を内包する建屋のうち、浸水防止を考慮する高さ※より低い範囲における外部からの貫通部

プラント	調査範囲
東海第二発電所	原子炉建屋 原子炉棟（1階～地下2階） 廃棄物処理棟（1階～地下1階） 電気室（1階～地下2階） 非常用ディーゼル発電機室（地表面～地下2階） タービン建屋（1階～地下2階）
敦賀発電所1号機	原子炉建屋（1階～地下1階） タービン建屋（1階～地下） サービス建屋（1階～地下）
敦賀発電所2号機	原子炉建屋（1階～地下2階） 原子炉補助建屋（1階～地下4階）

※浸水防止を考慮する高さの設定については、一時的な豪雨にも対応できる排水設計を踏まえ、設計床高さとした。（東海第二発電所、敦賀発電所1号機は地表面から20cm、敦賀発電所2号機は地表面から30cm）

2. 調査結果

(1) 洪水等の発生による施設への影響

東海第二発電所は、国や自治体が発表しているハザードマップ等により、敦賀発電所は、周辺地形の構造により、河川の氾濫を想定しても施設へ影響が及ぶことがないことを確認した。

また、各発電所ともに、一時的な豪雨を想定した排水設計となっており、洪水による施設への影響はないことを確認した。

(2) 貫通部の数と浸水防止対策

1. (2)の調査範囲のうち地表面上の貫通部は0箇所であった。一方で、地表面以下の貫通部は合計で543箇所であったが、すべての貫通部において浸水を防ぐ措置（モルタル充填やシール材塗布等）が施されていることを確認した。

プラント	地表面下の貫通部	貫通部の合計
東海第二発電所	223箇所	543箇所
敦賀発電所1号機	170箇所	
敦賀発電所2号機	150箇所	

以上